

市民の力が人を呼ぶ！

「楽しみながら地域経済を活性化」

～東北ずん子スタンプラリーの誘客力と経済効果～

その取り組みに関わる市民の心には、郷土への深い愛情がある。縁ある土地での営みを楽しむ姿もある。それらは、「行ってみたい」と人を呼び寄せる力がある。そして、そんなまちには未来がある！



皆さんは、「東北ずん子」をご存じですか？「名前は聞いたことがある」「スタンプラリーに参加したことがある」「全然知らない」など、人それぞれ認知度に差があると思います。毎年6月から7月に、「東北ずん子スタンプラリー」が実行委員会の主催で本市などを舞台で開催され、本年度16回目を迎えます。

スタンプラリーには多くの支援者のほか、市内商店街の店舗、店舗ごとのパネル画を描く絵師などを盛り上げています。スタンプラリーの取り組みは、アニメを活用したまちづくりのモデルケースとして、大学や他自治体、旅行会社などが関心を寄せています。いったい、「東北ずん子」とは、どのようにして生まれ、現在に至るのでしょうか？

東北ずん子の誕生とスタンプラリーへの活用

東北ずん子は、キャラクターの企画・運営を行うSSS合同会社が、東日本大震災からの東北復興を支援するために制作した、ずんだ餅をモチーフにした少女のキャラクターです。東北ずん子のほか、青森県のイタコを基に姉の「東北イタコ」、秋田県のきりたんぼを基に妹の「東北きりたん」も含めた東北三姉妹と、モチーフがずんだ餅の妖精「ずんだもん」がいます。このキャラクターを東北の企業には無償利用を可能とするなど、東北地方を支援しています。

キャラクターは、スタンプラリーのほか、お土産グッズや商品パッケージなどに広く使われ、協力店舗は経済効果を肌で感じると口をそろえます。協力店舗の中には、スタンプラリー期間の売り上げが通常月と比べ約5倍になるといふ店舗もあります。誘客者も年々増加し、昨年のスタンプラリーで景品交換

の条件となる6店舗以上からスタンプを集めたのは、1,615人に登りました。

また、実行委員会が行ったスタンプラリー運営費を集めるクラウドファンディングは、7日間で目標額の530万円に達し、最終的には729万円集まるなど、年々支援者の輪は広がり、運営の大きな力となっています。

スタンプラリー報告会

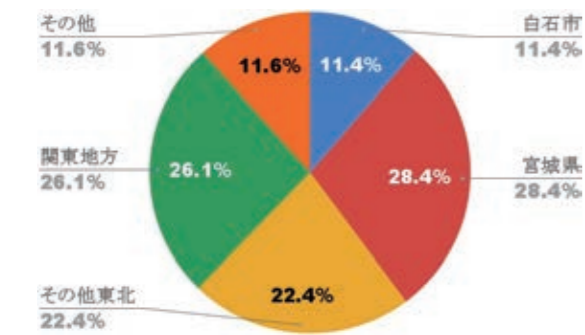
実行委員会では、毎年スタンプラリー報告会を開催し、協力店舗の方や支援者が参加しています。「楽しみながら地域経済を活性化する」というスタンプラリーの目的を再確認するとともに、スタンプラリーの分析や課題など、次回に向けて検証しています。



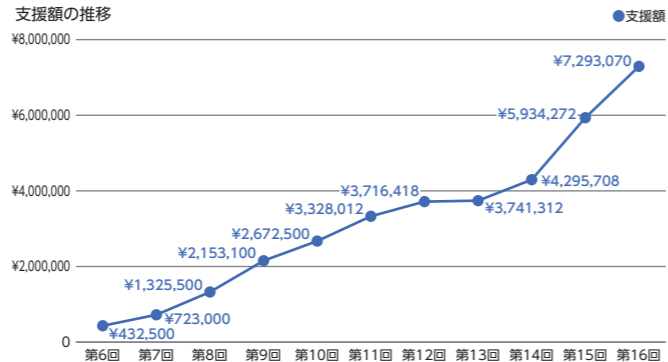
▲ずんだもん (妖精) ▲東北きりたん (妹) ▲東北イタコ (姉) ▲東北ずん子



▲熱心に耳を傾ける参加者たち



▲誘客層の内訳 (実行委員会提供資料)



▲年々増加するクラウドファンディング支援額の推移 (実行委員会提供資料)



◎商工観光課 (一般社団法人 白石市観光協会事務局) ☎22-1321